

# 中国文芸研究会 2015 年度総会議案書

中国文芸研究会は、研究誌『野草』を年二回、『中国文芸研究会会報』（以下『会報』と略）を年十一回刊行し、例会を年十回開催している。さらに夏期合宿を企画し、有志による「映画の会」や「書評の会」も継続して運営されている。今年度もこうした活動を中心とする研究が活発に展開されるであろう。

一方、マンパワーの不足は常態化しており、にわかには改善が見込めない。会員数は一時期右肩上がりだったが、近年では、ほぼ横ばい状態が続いている。事務局メンバーの多くが所属する大学運営のあり方も変化し、会員も年々忙しくなる一方である。

こうした情勢にあって、学会組織とは異なる民間の研究団体が、会費と純粋な研究心だけに支えられて活動を維持してゆくには、これまで以上に実質的な事務局体制の整備と、学会や研究機関の活動とは一定程度差別化された、独自の研究活動の展開が求められるだろう。本研究会は、目先の成果に縛られず、のびやかに研究をひろげ、相互交流を深めながら、じっくりと息の長い、着実な研究活動を続けることのできる場でありたいと願う。

こうした研究活動を支える経済的基盤である会費は、会員から滞りなく納入されている。

また、実際の研究活動については、以下に記すように、各セクションにおいて工夫がこらされ、活性化がはかられている。年十回の例会が、毎回 20 名程度の参加者を確保できていることもそのあらわれであろう。こうした活動を『野草』や『会報』の紙面に極力反映させ、課題を広く会員と共有し、今年も積極的に研究会の運営に努めてゆきたい。

なお、今年度から、2 年後に迎える『野草』100 号記念号の編集委員会を立ち上げ、編集作業に着手する。

## I. 2014 年度活動報告

\*会員数は 235 名（2015 年 3 月 31 日現在）。前年度より 5 パーセント程度減少した。

\*運営面では、事務局の役割分担がほぼ定着し、円滑な研究会活動が行われた。今後とも事務局体制を維持・更新してゆく人材の確保・育成が重要である。

以下、セクションごとに活動状況を報告する。

### (1) 『野草』刊行（担当：田村容子・小笠原淳）

\*第 94 号（2014 年 8 月 1 日刊行／編集担当：田村容子／版下担当：平坂仁志）および第 95 号（2015 年 2 月 1 日刊行／編集担当：小笠原淳／版下担当：小笠原淳）を予定通り刊行することができた。

\*第 94 号は特集を設けず、八本の論文を掲載した。例会・合宿で報告・討論の後で『野草』に投稿という基本方向はほぼ保たれた。

\*第95号は特集を設けず、五本の論文を掲載した。例会で報告・討論の後で『野草』に投稿という基本方向はほぼ保たれた。

## (2)『会報』発行 (担当：永井・三須)

\*前年に引き続き2014年度も、永井英美をリーダー、三須祐介をサブリーダーとして活動し、2014年4月号(390号)3月末原稿〆切・4月上旬編集作業・4月末発送＝上原、5月号(391号)＝河本、6月号(392号)＝島、7月号(393号)＝阿部、8月号(394号)＝永井、9月号(395号)＝河本、10月号(396号)＝豊田、11月号(397号)＝津守、12月号(398号)＝三須、2015年1・2・3月号＝400期記念号＝三須・中野・田村・永井、がそれぞれ編集を担当した。

\*各月とも期日どおり順調に出すことができた。

\*昨年度に続き、担当者は会報担当者MLに版下をアップし、手の空いた者がチェックしたのちに印刷に回すという手順をとった。

\*14年度は「自伝を読む会」との連携を行い、同会の発表者がその都度発表内容をまとめて会報に寄稿した。また連載も複数寄せられ、単発の寄稿もあり、原稿がほぼ順調に集まっている状況は大変ありがたい。「反響」コーナーを作るなどの効果もあったのではないかな。

\*印刷費の関係もあって設定された「ひと月あたり12頁を限度とする」という原則は守られた。

\*編集担当者がPDFを作成しメールマガジン版を配信した。

\*遠方等の事情でやむを得ない場合をのぞき、会報担当者が会報発送にも立ち会い、執筆者分の送付などに気を配り、編集から発送までの過程の責任をもつという形で担当号に対する責任を果たした。立ち会えない場合も会報担当者の誰かが代理をつとめた。

\*「交流」欄の編集については、事務局員が情報を随時事務局MLに挙げ、それが主な情報源となったほか、交流データベースも活用した。

\*「例会記録」は、基本的に報告者によるレポートを掲載した。

\*『会報』メールマガジン版登録者は、現在のべ113名である。

\*会報印刷費はあらかじめ会計係りからサブリーダー(三須)が予算を預かり、木村桂文社からの請求に応じてその都度支払った。

\*1～3月の合併号として会報400期記念号を発行した。三須・中野・永井が編集を担当し、田村が版下作成、表紙デザインなどを行った。校正は複数の会報担当者が分担した。今回は会員以外の方が手に取りやすく、また些少でも研究会の収入にするべく頒価を500円に設定した。執筆者をはじめとする会員諸氏のご協力により、31名の執筆者による118頁の充実した記念号となった。

\*400期の編集、15年度2・3月合併号の担当者の決定、会報作成上の問題点、今後の会報担当者の活動、翌年度の総会議案書の作成などについての相談のために、1月例会日の午前中に「会報担当者懇談会」を行った。本議案書の「活動報告」「活動方針」は、

その内容をもとに作成している。

### **(3) 「例会」開催 (担当：濱田)**

今年度は欠会もなく、予定通り10回の例会を行うことができた。

通常の研究報告のほかに、4月例会ではチベット文学の翻訳者である星泉氏と大川謙作氏にチベット現代文学についての講演をお願いした。また、9月例会、3月例会ではそれぞれ『野草』94号、95号の合評会を行い、12月例会では鈴木正夫著『日中間戦争と中国文学者：郁達夫、柯靈、陸蠡らをめぐって』をとりあげて書評を行った。例会の参加者人数は平均して20人余り。『野草』編集担当の小笠原淳と大野陽介が積極的に報告者を集めてきてくれたこともあり、比較的早い時期に例会内容を決めることができた。「例会報告→『野草』掲載→例会での合評」という流れもほぼ保たれていたように思う。

### **(4) 「夏期合宿」 (担当：大東)**

\*夏期合宿 (担当：大東和重・城山拓也) は、8月31日～9月2日の3日間にわたり、和歌山市加太の淡嶋温泉・大阪屋「ひいな湯」にて開かれた。参加者は23名。2014年度の特集は「中国人日本留学生研究の現在」で、春柳社、周作人、陶晶孫、奈良女子高等師範学校の中国人留学生、東京左連、1930年代の留学生の芸術活動に関する発表がされ、また梁思成についての自由発表があり、密度の高いプログラムであった。中国人日本留学生研究の最前線を確認しつつ、分野を同じくする研究者が相互に理解を深め、充実した3日間となった。

### **(5) 「書評の会」 (担当：松浦)**

\*松浦恆雄 (責任者)・今泉秀人が中心となって、4月・6月・10月の例会前の午前中に開催した。6月は、著者が参加され、これまで以上に活発な意見のやりとりがあった。また、10月で取りあげた書物が12月の全体書評でも再度取りあげられた。書評後に、新刊書・論文などの情報交換も行い、最新の研究成果に触れる効果は十分にあった。

\*6月と10月の書評の会の内容は『会報』に掲載した。

### **(6) 「映画の会」 (担当：菅原)**

\*個々のメンバーの間で書評等の企画は議論されるものの、実現しなかった。

\*メンバー各自の SNS による情報交換は進んだが、かならずしも全ての情報が網羅的に共有されている状況ではない。コミュニケーションのツールが多様化しつつある中、効果的に情報を収集し、共有していく方法を引き続き模索したい。

### **(7) 「特別事業」計画 (担当：宇野木)**

\*過去の「特別事業」において清算処理が済んでいなかった『今天』復刻版刊行事業に関して、清算作業に取り組み、書店との関係なども含めて清算作業を全て終了した。以上により、「特別基金」に基づくこれまでの「特別事業」は、所期の目的を達成したものととして閉じることとする。

\*この間、話題になっていた『図説・中国 20 世紀文学』（白帝社、1995 年初版・98 年再版）の新版刊行に向けては、打ち合わせを実施した。「特別事業」の新たな展開をめぐる議論の中で、課題の 1 つとして位置づけていく。

#### (8) 「野草ネットワーク」(担当：青野)

\*レンタルサーバーによる研究会のネットワーク運営が定着した。

URL=<http://c-bungei.jp/bungei.shtml>

E-mail=office[アットマーク]c-bungei.jp

\*ウェブサイトは、菅原慶乃が中心となって管理・更新作業を行ない、充実した内容となっているが、ウェブサイトの重要性に比例して、担当者の負担が重くなってきている。

\*事務局アドレス office[アットマーク]c-bungei.jp 宛のメールを事務局 ML に転送する作業は、2011 年度より菅原・鳥谷の複数担当制へと移行した。これにより、転送処理の相互チェックがはたらき、転送ミスや対応漏れ等を防ぐことが可能となった。

\*「野草 ML」(登録数のべ 87 件)は会員交流の場として、「事務局 ML」(登録数のべ 62 件)は運営に関わる意見交換や実務作業効率化の手段として重要な役割を果たした。「野草 ML」は依然あまり活発ではないが、気軽な情報交換の場として、一定の活用がなされた。

\*『会報』メールマガジン(登録のべ 113 件)は、会員数に比して依然登録数が少ない。さらに登録を呼びかけることと、アーカイブ化の検討とが必要であると思われる。

\*「交流データベース」を WordPress を利用したスタイルに変更し、登録作業を自動化することができるようになったが、『会報』の交流欄との連携はまだ十分うまくいっていない。また検索機能についても、まだ実用化できていない。

## II. 2015 年度活動方針

\*事務局体制をしっかり安定させ、研究活動の維持・向上に努める。

\*そのため、(1) 組織の維持管理を受け持つ会費管理・口座管理・事務局 ML、(2) 研究活動の発表や広報を受け持つ例会・会場予約・二次会予約・夏合宿・『野草』・『会報』・ウェブサイト、(3) 新しい研究活動の企画を受け持つ「書評の会」・「映画の会」・特別事業の三本柱ががっちり組み上がり、本研究会が十分に力を発揮できるよう、事務局・各セクションの役割分担を確認し、相互の連携を強めてゆきたい。

\*大学院生を中心とする若手層および関西在住以外の会員にも、主体的、積極的な参加と役割分担を呼びかけるとともに、広く会員からの積極的な提言や取り組みを歓迎したい。

\*研究活動の活性化には、例会報告や『野草』掲載論文などにおける研究水準の向上が不可欠であるが、そのためにも、これまで以上に多様な方法が試みられて良いだろう。

\*今年度より、例会の開催時刻を午後 1 時とする。

以下、セクションごとの活動方針を記す。

### 1 各種研究活動について

### (1) 『野草』刊行 (文責：松浦)

\* 『野草』の刊行は、研究会の中心事業である。刊行の継続と掲載論文の質的向上は、恒常的課題である。そのため、「例会報告→『野草』掲載→例会の合評会」という基本原則を守り、それぞれに充実させることを研究会活動の骨子とする。

\* 編集担当者は、従来通り、執筆予定者との連絡を十分にとるだけでなく、独自の企画を立てる場合は、特に例会担当者との連携を密にする必要がある。

\* 編集担当者は「『野草』編集の手引き」を活用し、締切りを厳守することにより、投稿原稿の審査(査読)や版下作成を含む全ての編集作業が円滑に進むように努める。

\* 「『野草』編集の手引き」は、現状を踏まえて改訂する必要がある。

\* 今年度も『野草』編集に関わる中・長期的な計画に基づき、編集担当者を決め、十分な余裕を持って編集作業が行えるよう努めなければならない。

\* 今後の刊行計画は以下の通りである。

・第96号=2015年3月末原稿提出〆切、2015年8月1日刊行。編集：大野陽介〔サポート三須祐介〕

・第97号=2015年9月末原稿提出〆切、2016年2月1日刊行。編集：津守陽〔サポート田村容子〕

・第98号=2016年3月末原稿提出〆切、2016年8月1日刊行。編集：鳥谷まゆみ〔サポート宇野木洋〕

・第99号=2016年9月末原稿提出〆切、2017年2月1日刊行。編集：阿部沙織〔サポート阿部範之〕

・第100号記念号=2016年12月末原稿提出〆切、2017年12月刊行。編集：100号記念号編集委員会

・第101号=2018年3月末原稿提出〆切、2018年8月1日刊行。編集：未定

・第102号=2018年9月末原稿提出〆切、2019年2月1日刊行。編集：未定

\* 『野草』の書店への卸作業、海外送付先への発送作業は、今年度は好並晶の担当とするが、来年度以降の担当は検討する。バックナンバーの管理は引き続き藤野真子の担当とする。

### (2) 『会報』発行 (担当：永井・三須)

\* 編集担当体制は、昨年同様、永井英美をリーダー、三須祐介をサブリーダーとする。

\* 昨年度同様、紙媒体版とメールマガジン版の2本立てで発行し、例会の前に発送作業を行う。

\* 「例会」開催日程との関係から、2月号は3月末に2月号・3月号合併号として発行する。

\* 紙面は原則として12頁まで、3月末発行の合併号については24頁までとするが、予算の範囲内で臨機応変に対応できるようにする。原稿の依頼・採否等は各月編集者の裁量で行なうが、各月編集者が必要と考えた場合は、リーダー・サブリーダーに相談し、最

終的には事務局の判断に委ねることもできる。

- \* 今年度の 2 月・3 月合併号は阿部沙織が編集を担当し、通常の記事のほか、特集を企画する。特集についての詳細の発表と原稿の募集は 12 月号、1 月号の会報で行う予定である。
  - \* 1 月例会の午前中に「会報担当者懇談会」をもち、会報担当者が集まって、編集上の問題点、次年度の合併号の担当者、総会議案書の検討、今後の会報のあり方などについて、アイデアや意見を出し合う。その席での決定はその日午後の 1 月例会で報告し、事務局全体にメーリングリストで報告するとともに、その決定内容をもとに次年度の総会議案書「会報」の「活動報告」「活動方針」を書く。
  - \* 会報印刷費はあらかじめサブリーダー（三須）にあずけ、年度末に会計との間で清算をおこなう。
  - \* 編集担当は、基本的に担当者の希望に基づいて以下のようにする。
- 2015 年 4 月号（402 号）＝上原、5 月号（403 号）＝羽田、6 月号（404 号）＝和田  
7 月号（405 号）＝南 8 月号（406 号）＝小笠原 9 月号（407 号）＝河本  
10 月号（408 号）＝永井 11 月号（409 号）＝大野 12 月号（410 号）＝豊田、  
2016 年 1 月号（411 号）＝島 2 月 3 月合併号（412、413 号）＝阿部沙織  
4 月号（414 号）＝上原 5 月号（415 号）＝津守 6 月号（416 号）＝羽田  
7 月号（417 号）＝田村
- \* 担当者は原則として編集から発送までの責任を負うこととし、担当月の会報を発送するときには立会い、執筆者分の封入、残部処理の確認などを行う。（急用など、または遠方のため立ち会えない場合は、京都会場は永井、大阪会場は大野がその代理をする。）
  - \* 引き続き内容の充実・活性化を図り、「交流」欄を充実させる。全国の会員にも「野草 ML」などを活用して研究情報をお寄せいただきたい。
  - \* 「例会」記録は原則として「例会」報告者が執筆する。ただし 4 月例会（講演）、12 月例会（書評）はその限りにあらず、あらかじめ記録者を決めておく。
  - \* 印刷費削減のため、画像は原則として版下データに埋め込む。
  - \* 海外研究機関・研究者への贈呈および海外留学生への配送サービスのあり方については、来年度から PDF 送付に移行できるよう準備を進める。今年度の海外発送担当は好並晶とする。
  - \* メールマガジンの運営は青野繁治が行い、PDF ファイルの作成と配信は各月の編集担当が行う。
  - \* 投稿者は原稿送稿の際、原則として E-mail 添付（原稿ファイルと印刷イメージ PDF）とする。画像については、データを添付して配置位置を指示する。送られた原稿の返却は原則行なわないが、特別の事情があつて返却を希望する場合は、その旨を申し出て、あて先を明記し切手を貼付した返信用封筒を同封すること。

【原稿送付先】

・E メール office[アットマーク]c-bungei.jp 「中国文芸研究会会報」原稿であることを明記する。

(〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1 大阪大学箕面キャンパス青野研究室気付中国文芸研究会事務局宛)

\*過去には投稿がなくて担当者が苦勞することも多かったが、会員諸氏のご協力のおかげで連載原稿や「自伝を読む会」とのタイアップ原稿などにより、充実した紙面となっている。深く感謝するとともに、引き続き会員諸氏の活発な投稿をお願いしたい。今後も、各会との連携など、会報活性化に向けてさまざまなアイデアをいただきたい。

\*各号の「反響」欄にもぜひ一言をお願いしたい。

\*会報担当者は、十数名の担当者で分担して仕事をする、という点が、ほかの事務局の係りとは異なっている。各地に散らばりそれぞれ多忙な各担当が、話し合ったり、共通認識をもったりすることは容易ではないが、1月例会日の午前中に行う「会報担当懇談会」での話し合いほか、随時意見交換を行って、今年度も係りとしての責任を果たしてゆきたい。

### (3) 「例会」開催 (担当：濱田)

\*「例会」開催数は、年間10回とする(2月、8月は例会を行わない)。月の最終日曜日午後1:00より開会することを原則とする。12月は忘年会を兼ねるため、日時は別途定める。今年度は会場予約の関係で、10月は最終日曜の25日ではなく18日に開催することになったので注意していただきたい。

\*講演(会員外・他領域・外国人研究者などを含む)・書評を年間各1回程度、『野草』関連報告を数回組み入れる。『野草』合評会(9・3月例会)の討論内容は、次号の『野草』誌上の合評記に反映する。論文執筆者は合評会に出席することを原則とする。

\*「例会」担当は濱田麻矢(office[アットマーク]c-bungei.jp)とし、例会の企画と報告希望者の調整を行なう。調整の必要から、希望者は早めに申し込むことが望ましい。コメントーターについては報告者の申し出があれば検討する。

\*会場は、偶数月は同志社大学(京都会場)、奇数月は関西学院大学大阪梅田キャンパス(大阪会場)とする。ただし、状況に応じて会場は変更になる可能性があるため、各自研究会のウェブサイトをチェックしていただきたい。会場予約は阿部範之(同志社大学)・大東和重(関西学院大学)、二次会会場予約は京都=鳥谷まゆみ、大阪=大野陽介が担当する。

\*すでに決定している「例会」内容(例会カレンダー)は以下の通り。

4月26日(京都) 講演 山口守先生「本質主義を超えて—華語語系文学・漢語文学から学ぶ—」

5月31日（大阪） 余迅／寶新光  
6月28日（京都） 封徳屏／鄭洲  
7月26日（大阪） 謝瓊／齊藤大紀  
8月 不開催  
9月30日（大阪） 『野草』96号合評  
10月18日（京都） 鳥谷まゆみ／今泉秀人  
11月29日（大阪） 谷行博／池田智恵  
12月 （京都） 書評（未定）  
1月25日（大阪） 鄭恵  
2月 不開催

3月29日（大阪） 『野草』97号合評

**（４）「夏期合宿」**（担当：大東・城山）

\*夏期合宿は、集中的な研究・交流の場として極めて重要である。大東和重・城山拓也を担当者とする。

\*今年度は「日本中国当代文学研究会」との合同開催を予定。例年と異なる日程（8月中旬）にて開催し、「当代文学研究の現在」特集を組む予定。詳細は「会報」および「ウェブサイト」掲載の案内を参照のこと。

**（５）「書評の会」**（担当：松浦）

\*今年度も、4月・6月・10月（京都会場）の例会前（午前10時半開始）に開催する。書評内容の『会報』への掲載は継続してゆく予定である。具体的な書評対象については、『会報』またはウェブサイトで確認していただきたい。

**（６）「映画の会」**（担当：菅原）

\*今年度も、東アジア映画研究関連書籍やイベント等の話題に目をむけつつ、映画の会の活動を、『野草』をはじめとする文芸研の諸活動に有機的に結びつけていけるよう、模索する。

\*開催スケジュールは現在のところ流動的で定型化されていない。今後の開催方針については前年度に引き続き検討していく。

\*「映画の会」は映画研究に興味をもつ会員有志の集まりであり、すべての会員に開かれている。情報交換にはメーリングリストが利用されている。映画の会メーリングリストへ

の参加を希望される方は、菅原会員までご一報願いたい(メールアドレス:yoshino24[アットマーク]nifty.com)。また過去の開催内容については、文芸研ウェブサイトを参照されたい。

#### (7) 「特別事業」計画 (担当：宇野木)

\*従来の「特別事業」を全て終了したことの確認の上に立って、新たな「特別基金」に基づく「特別事業」制度を、新たに規定などを策定して発足させる。そのための議論を早急に進めていく。

\*新たに発足する「特別事業」制度に基づいて、『野草』100号記念号刊行や『図説・中国20世紀文学』新版刊行などの課題について検討を進め、合意を得られたものから実現していく。会員からの企画の提案も受け付ける。

#### (8) 「野草ネットワーク」(担当：青野・菅原)

\*コンピュータ・ネットワークを利用した『会報』『野草』編集作業の効率化は定着した。コンピュータ・ネットワークは事務の効率化に留まらず、遠隔地との交流や種々の情報提供・発信手段として、不可欠のものである。レンタルサーバーによる運営も定着したので、新たな展開が期待される。担当は青野繁治・菅原慶乃とする。

\*『野草』掲載論文の検索を始め、本研究会に関する様々な情報を発信している「中国文芸研究会ウェブサイト」(<http://c-bungei.jp/bungei.shtml>)を、さらに充実させていく。

\*設置された「交流データベース」(<http://c-bungei.jp/database/>)と事務局 ML の連携がうまくゆくようにするために、事務局 ML に掲載された交流情報を、データベースに登録する担当者をきめる、あるいは、ML に情報提供すると同時に、提供者がデータベースにも書き込むようにする、などの工夫をする。会員の皆さんが、著書や論文を発表された場合は、この「交流データベース」に情報を投稿していただければ幸いである。最初の登録は名前(ニックネーム可)が認証されるのを待つ必要があるが、認証されれば、次回の投稿から同じ「名前」であれば、その手続きが省略される。投稿されたデータを検索する機能もあるが、検索機能の充実を今後の課題とする。

\*「野草 ML」(加入手続=事務局までメールでアドレスを知らせること。手続が完了すると担当者からそのアドレスに通知がなされる)を活用した会員間の交流にも期待したい。

\*事務局アドレス宛のメールを事務局MLに転送する作業は、前年度に引き続き、菅原・鳥谷の複数担当制で行う。

## 2 運営体制について

\*研究会の運営は、事務局と『野草』編集委員会によって行う。

### (1) 事務局

\*事務局は、総会決定に基づき研究会活動の日常的な実務を担当する。事務局構成メンバーと担当は以下の通り。

青野繁治 (ML サーバ管理)・阿部沙織 (会報、『野草』99号編集担当)・阿部範之 (京都

会場予約)・井上薫(会報)・今泉秀人(普通口座)・上原かおり(会報)・宇野木洋(特別事業)・小笠原淳(会報)・大東和重(夏期合宿・会場予約)・大野陽介(メール便大阪、会報、大阪会場二次会予約、『野草』96号編集担当)・河本美紀(会報)・北岡正子(『野草』編集常任、代表)・絹川浩敏(『野草』編集常任)・工藤貴正(『野草』編集常任)・黄英哲(海外交流)・斎藤敏康(『野草』編集常任)・佐原陽子(会報)・島由子(会報)・菅原慶乃(映画の会、ウェブサイト管理、外部メールのML転送)・谷行博(『野草』編集常任)・田村容子(会報)・津守陽(会報、『野草』97号編集担当)・鳥谷まゆみ(京都二次会場予約、外部メールのML転送、『野草』98号編集担当)・豊田周子(会報)・永井英美(会報編集リーダー、メール便京都)・中野徹(会報)・羽田朝子(会報)・濱田麻矢(例会)・平坂仁志(版下)・福家道信(『野草』編集常任)・藤野真子(会費、名簿管理、振替口座)・松浦恆雄(書評の会、事務局長)・三須祐介(会報サブリーダー)・南真理(会報)・弓削俊洋(『野草』編集常任)・好並晶(海外、書店)・和田知久(会報)。

\*事務局の住所は以下の通り。

〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1

大阪大学箕面キャンパス 青野研究室気付

## (2) 『野草』編集委員会

\*『野草』編集委員会は、常任委員(『野草』編集担当経験者など)、編集担当、及び編集担当が事務局構成員を中心とする会員から選出した編集委員若干名により構成される。

\*『野草』編集委員会は、『野草』の編集と刊行に責任を持ち、投稿論文の査読を手配する。また「原稿審査(査読)」のあり方、『野草』の編集・投稿規程の策定などを含む中・長期的な課題について検討する。

\*『野草』編集委員会は、編集担当が必要に応じ事務局と相談し招集する。

## (3) 会計監査

\*財政の健全な執行を図るべく会計監査を置く。会計監査は岡田英樹とする。